

玉垂

たまだれ
No.4



雪の御社殿

内親王殿下御誕生

ご挨拶

小國神社 宮司 打田 文博

平成十四年壬午歳の新春は穏やかな天候の中幕明けとなり当社の神事も、正月の諸祭典から節分祭そして祈年祭と順調にご奉仕申し上げます。

昨年は内外共に暗い出来事が続きましたが年末、皇太子同妃両殿下におかれましては、敬宮愛子内親王殿下がご誕生遊ばされ、誠におめでたい一年の締め括りとなりました。この上は、ひたすらお健やかなご成長をお祈り申し上げ次第であります。

本年の干支「午」は、陰と陽とが激しくせめぎ合い、運命を決することになるようです。歴史を溯れば、大化の改新・赤穂浪士の討ち入り・日露戦争、そしてバブルの崩壊も午歳です。つまり歴史を動かす出来事が起き運命を一変する可能性をはらんだ歳と考えられているようです。皆様方におかれましては、天馬が天空を自由に駆けめぐることがとく、縦横無尽の発想と行動を持って、一日千里を走る駿馬のようにこの一年を力強く駆けめぐっていただき、運命を好転させる転機の年となりますよう念願致しております。

さて、小國神社のお正月は、年々激しくなる洪滞の中、年明早々からの参拝に始まり三ヶ日の混雑を避けお参りされる方々などで、御社頭賑賑しい新年となりました。毎年のことではありますが、長時間を掛けての参詣は敬神の心の表われで頭のさがる思いです。

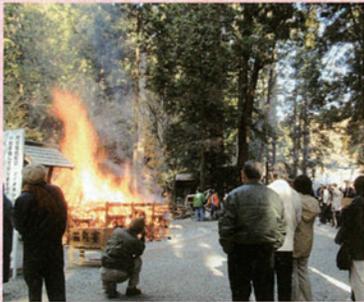
ところで、昨年小泉総理が外相に渡したことで話題になりました佐藤一斎の「重職心得箇条」がありました。改めて読んでみますと重職に限らず広く参考になる点が多々あることに感激致しました。たとえば、その三条に「家には尊重しなければならぬ伝統がある一方因襲ともいふべき習慣もある。ところが守るべき原理・原則を古くさいとしておいやり、因襲めいたことを家法のように心得違い



田遊び神事



正月の社頭



どんど焼



手新始祭

をしていいる場合がある。注意すべし」との教えである。すなわち、守るべきことと時世に応じて変えるべきことを間違えるなど言うことで、日常生活の上でも拳々服膺したいものです。

時恰も平成十四年は、当社十二段舞楽が国指定の民俗文化財として指定され二十周年の佳節にあたります。原理・原則を守り、長く伝えてまいらねばなりません。

先に記しましたがように、大神様のご加護を戴きまして、どちら様にとりましても本年が一層よき年となりますようお祈り申し上げます。挨拶と致します。

拝殿御簾の奉納

旧臘の十二月二十日、拝殿に裝飾されている御簾一式(十六枚)が新調され、取り付けられました。

この御簾は、清水市在住の長野律子様をはじめ十名の皆様方によるご奉納であります。神社の拝殿には従来通りに本物の良い品を調度して戴きたいとの用途指定寄附であり、大和錦織の正絹布地を使用した京製の御簾であります。御簾は、竹を細く割って編み、竹と竹との隙間から光を採り入れることで、人の眼を避けつつ室内の明るさを保つように工夫したもので、御殿の簾との意味から「御簾」と尊称されています。

ここにご奉納の皆様のご芳名を掲載し、改めて厚く御礼を申し上げます。

長野 律子 土屋 昌代 西ヶ谷直美
 剣持 早苗 望月 美里 寺尾 純子
 塚本 泉 北川 智美 山口 寿子
 田中美由紀 (敬称略)



ご奉納の御簾一式

氏子青年会の正月奉仕

新年を迎え元日午前零時より、賑わう参道沿いの特設テントにて当社氏子青年会会員(会長 鈴木邦男)による、開運ダルマの授与奉仕が行われました。例年一週間程奉仕されており、会にとつては年間を通じて重要な事業活動となります。ダルマの大きさは数種あり、本年はやや小さめのものが多く授与されたそうです。

また、元日午前三時より齋行された歳旦祭に会員より二名祭員として奉仕され、伝供のお手伝をしていただきました。

小正月過ぎの最初の日曜日(一月十五日を含む以降の日曜日)にはどんど焼祭が齋行され、祭典参列後おはたき餅の授与奉仕が行われました。この餅をどんど焼の火で焼いて食べると、その年は心身ともに健康で無事に過ごせると云われています。多くの参拝者が竹竿の先に餅をさし、火を囲んで焼いて食べる光景がみられました。奉仕後引き続き初集會が開催され、正月の活動は一段落となります。

尚、師走には拝殿・神徳殿の注連縄の製作並び奉納が行われ、年末年始にわたり多大に貢献しております。



氏子青年会だるま授与奉仕

総代会研修旅行

責任役員 松下 昭

九月四日から三日間総代会研修旅行で九州東北部に行つて参りました。福岡からバスで約二時間、菊池神社に正式参拝する。少年時代の記憶をたどると菊池武光という武将が浮かぶ。参道に昭和十七年五月海軍特殊潜航艇で遠くオーストラリアのシドニー軍港に突入し散華された菊池一族の流れを吸む軍神松尾敬宇中佐の胸像を拝する。

中佐のご両親の歌

菊池なる神のをしへをひたぶるに
よくぞはたせしますらをの道

まつ枝

君がため散れと育てし花なれど
嵐のあとの庭さびしけれ

昇殿参拝後坂本宮司様の講話を伺い境内を案内していただく。歴史館もとの事であったが時間の関係でご辞退する。

二日目

朝坂本宮司様がホテルにお見えになり大観峰（九三六M）への寄道で竹炭を焼く窯元を案内して下され自分



天岩戸神社参拝

の車で先導される。三八七号を東に向かう。巨木を割らずに時間をかけて苦労して作り上げた作品に感心する。

大観峰を南に二二号線で一の宮門に降りる。肥後の国一の宮阿蘇神社に正式参拝。嘉永二年に完成という楼門は二重の屋根となつて両脇は神幸門・還御門からなり由緒あり格式の高さを感心させる。

阿蘇山の草千里に向かうも雨と霧で視界さかず阿蘇火山博物館で熊本県と大分県にまたがる一二〇〇M〜一五〇〇Mの阿蘇五岳を観る。幅三十Mの超大型スクリーンに現在も活動中の中岳（一五〇〇M）の火口がせまりくる時は圧巻であった。

高千穂神社正式参拝。お神楽奉納する。神前の秩父杉は八百年余を経ているといわれる。新装なった神楽殿にて国の無形文化財であるお神楽三十三番を約一時間六名で舞つてくださった。

熊本県は面積の六六%、宮崎県は七三%が山で占められている。私の推測では少子化・過疎化も進んでいるのではと思われ、何百年も続いた文化・伝統を守り続けている姿勢に深く心をうたれる。

三日目ホテルを八時出発、十五分間程で天岩戸神社に着く。神職さんが案内、説明くださる。社殿は東本宮と天岩戸直拝の西本宮とが岩戸川の渓谷をはさみ御鎮座されますがはるかに悠久の昔を偲び参拝をする。高千穂峡遊歩道を下る折あいに雨となる。晩秋の紅葉を頭に浮かべながら増水の渓谷も清流に置き替えながら歩く。帰路大変だなど思っていた矢先ホテルのマイ

クロバスがバス停車地まで迎えに来てくれうれしかった。

雨の中をバスは熊本市へ向かう。途中矢部町の「虹の通潤館」にて小休止する。標高八〇〇Mもの高地に通水の橋を作り上げた先人の知恵もさることながら「矢部茶」をはじめゆず、巻柿、有機米、高原野菜等山を守り水を大切にす村おこしの意気を感じた。

熊本市に入り御鎮座千五十年という藤崎八幡宮に正式参拝する。御奈良天皇の勅額をいただき国の重要文化財二点を蔵するこの神社、朱塗りの楼門も西南の役後改築されたとか。例大祭を数日後に控えて多忙の中、岩下宮司様が説明下さる。

この度の研修旅行は各神社の宮司様の含蓄ある講話も拝聴できたこと、火の国熊本の天孫降臨の日向の高千穂の峯に心洗われる気持ちであったこと、打田宮司様の交誼の深さと各神社宮司様の特別な計らいにありがたく熱いものを感じました。

目を閉じると太古の昔、私たちの遠い祖先が苦労を重ね開拓の精神が偲ばれる思いでありました。以前読んだ本に、作者・意味・情景は忘れましたが

岩もあり木の根もあれどさらさらと
たださらさらと水は流れる



高千穂神楽観賞

お世話になった各神社宮司様・打田宮司様はじめ企画され同行下さった事務局に厚く御礼申し上げます。ご参加いただいた総代会の皆様この研修旅行より多くのことを学ばれたことと思います。小國神社のご神徳の高揚に一層のご尽力をお願い申し上げます。ご協力ありがとうございました。

綿貫衆議院議長 森前内閣総理大臣 にご参拝

十二月三日午後三時、綿貫民輔衆議院議長と森喜朗前内閣総理大臣が正式参拝されました。

一の鳥居にて下車、多数の関係者が迎えるなか参道を進まれ、参集殿貴賓室にて小休憩の後、拝殿に昇殿され、修祓をうけられ玉串をささげて、ご拝礼されました。記帳ののち、控室にて親しく責任役員の皆様方とご歓談されました。



(左) 綿貫議長 (右) 森前総理

新嘗祭齋行

晴天に恵まれた十一月二十三日の午前十時より新嘗祭が斎行されました。案上には氏子の皆様方より奉納された農産物をお供えし、神様に豊穰の感謝を申し上げました。斎行後は殿内にて篤志奉納者への感謝状・記念品贈呈式が行われ、また舞殿横では奉納農産物品評会が開催され、午前十一時より即売が行われました。会場は多くの参拝者で賑わい瞬く間に完売となりました。

新嘗祭の真会に先だち大宝殿では、振興会設立五十周年記念式典が挙行されました。振興会は、戦後まもない昭和二十六年に発足され、本年は五十周年を向える慶賀の年となります。岩瀬会長のご挨拶、また森町助役佐藤賢一様よりご祝辞を賜りました。また、振興会の設立五十周年を記念し「祝詞座」の祭器具が奉納されました。振興会の主な活動は、例祭における神賑行事と新嘗祭を行う奉納農産物品評会のご奉仕です。戦後物の不足の時代に神社の祭事が滞ってはいけないと、氏子地区の皆様より声が高まり、有志の方々によって結成されました。現在でも発足当時よりの奉仕活動は変わらず、先人たちの培ってきた精神は受け継がれております。神社にとって「祭祀の厳修」は最も重要であり、また「神賑」も同様です。会場では五十周年の節目にあたり、より一層の発展を誓いあつておられました。

奉納農産物品評会の表彰

協力賞

- 第一位 牛 飼部農会
- 第二位 上川 原部農会
- 第三位 谷 崎部農会
- 第四位 中川 上部農会
- 第五位 中川 下部農会

＜小國神社賞＞

- 米 宮代東 神間 熊夫
- 生姜 宮代東 高木 千秋
- 白菜 谷 中 藤田 つぎ
- 柿 谷 中 朝比奈秀昭
- 大根 中川下 柴本 鼎

＜遠州中央農協賞＞

- 人参 宮代東 松尾 徳次
- メロン 米倉 平田 一利
- レタス 谷 中 藤田 吾一
- 茶 中川上 本多 利吉
- 豆 中川上 鈴木 武久

＜小國神社振興会賞＞

- 米 宮代西 高木 俊
- かぶ 米倉 山本 光男
- 葱 田田下 小林 隆
- 梨 中川下 野末 貫也
- キウイ 中川下 野末 五郎 (敬称略)



奉納農産物品評会

小國神社振興会設立五十周年

会長 岩瀬 静夫

小國神社振興会が設立五十周年を迎えるにあたり、先ず以て諸先輩方に深く感謝申し上げ、現在御奉仕下さる会員の皆様方に厚く御礼申し上げます。

爾来諸先輩方は御社頭が賑わうよう神賑行事等を企画・実施致し、経費についても寄附募集にて賄う等並々ならぬ御尽力により本会の指針を示されてまいりました。

本会は終戦の動揺で人々の心が乱れ、神社運営も盛ならぬ状況下、先人達が「古式神事保存会」を結成された歴史に思いを致し「古式神事の保存顕彰と神社を振り興こす」を目的に篤信の有志を集い昭和二十六年十一月二十三日に結成されました。

さてこの五十年紆余曲折はありましたが、私たちが心の拠り処と仰ぐ小國神社に奉仕する心は些かも変わりなく、神社とともに発展する会としてこれからも活動致す所存であり、皆様方の倍旧の御理解・御協力をお願い申し上げます。



岩瀬会長ご挨拶



振興会設立五十周年報告祭

篤志奉納の方に感謝状の贈呈

敬神の念が篤く御祭神を仰ぎ、御神徳の宣揚のため特に物品等をこの一年間にご奉納賜りました方々に、新嘗祭に併せ、感謝状並びに記念品の贈呈をいたしました。

本年は「九谷焼十二支置物」を奉納されました静岡市の神麻藤四郎様、「浮世絵美人画」を奉納されました浜北市の伊藤光子様のお二方を篤志奉納者として感謝申し上げます。

それぞれ置物は参集殿貴賓室に、美人画は大宝殿玄関に飾らせて戴いております。

ここに掲載し改めて厚く御礼を申し上げます。



奉納 九谷焼十二支置物

敬神婦人会節分祭豆入れの奉仕

去る一月二十一日午前九時より、敬神婦人会の小池まさ子会長をはじめ二十四名の役員の方が参加し、毎年恒例の節分祭にて使用する福豆の袋詰め作業のご奉仕を実施されました。この福豆は節分祭当日に豆撒き式にて使われるほか、氏子地区また甲子講の祈禱神札につけられるもので、当日用意された一二〇kgの福豆は、女性ならではの器用さを生かし手早く袋詰めされました。

敬神婦人会は氏子内地区の女性による奉仕団体であり、毎月の境内清掃奉仕をはじめ様々な奉仕活動を行っており、神社の行事を縁の下から支えています。

終了後は、おしるこを食べ一日の労をねぎらいました。



命 名

平成十三年七月一日、平成十三年十二月三十一日

大場 一希	平出歩央葉	寺下 紗代	早馬 颯汰	小林 雅弥	齊藤 花依	近藤 拓哉	岡戸 玲奈	伊藤 大和	鶴見 優花	倉嶋 美緒	木野 智夏	中津川実佳	中津川裕基	山本 梨央	堀内 恒輝	山本 結大	大場 謙	戸塚 直哉	牧野裕一郎	町田 光	山下 紗奈	鈴木 聖也	瀨野尾翔己	神村明果里	竹下 紗矢	金原 悠斗
福田町	袋井市	袋井市	掛川市	東京都	掛川市	浅羽町	森 町	相良町	森 町	森 町	小笠町	菊川町	菊川町	森 町	森 町	森 町	豊田町	袋井市	浜松市	浜北市	掛川市	袋井市	船橋市	浜松市	袋井市	袋井市
鈴木 皓介	内山 育	長沼 立樹	金子 麻優	杉村 萌	石川 結斗	新村 紗矢	松浦 瑠菜	丸尾 真穂	中山 莉湖	山本 歩佳	小倉 愛菜	染谷 優依	近藤未紗季	神谷 優斗	塩崎 裕太	狩野良威央	馬淵 竜成	村松 姫名	増田 興	西尾 真衣	藤原 大季	伊藤 佑斗	鈴木 里奈	鈴木 海咲	田村 優斗	神馬 光貴
豊岡村	浜松市	袋井市	袋井市	掛川市	袋井市	浜松市	大東町	袋井市	袋井市	掛川市	森 町	東京都	浅羽町	磐田市	掛川市	掛川市	袋井市	袋井市	袋井市	袋井市	掛川市	掛川市	島根県	豊田町	菊川町	森 町
		堀内 理名	後藤 朱璃	松本 凌弥	大場 旬莉	鶴田 侑利	栗田みのり	相羽龍之介	森川ひまり	山本 享祐	相澤 歩武	長谷川弘武	伊藤 誠治	堀内愛香理	安藤 望乃	赤澤 由夢	久野 友基	溝口 翔琉	青野 歌穂	友田裕一郎	本村 美空	竹内 琳香	海野 真希	岩崎 滉祐	川崎 大嬉	鈴木 彩愛
		磐田市	小笠町	磐田市	袋井市	袋井市	掛川市	森 町	浅羽町	袋井市	大東町	浜松市	掛川市	森 町	袋井市	浜松市	袋井市	浅羽町	浜松市	森 町	袋井市	掛川市	袋井市	袋井市	磐田市	浅羽町

○当社では、お子様の命名を申し受けております。

まつり歳時記

二月〜五月

二月 如月にがひ

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 節分祭世話人祈祷祭 (午前十一時)
- 三日 節分祭 (午後二時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 紀元節祭 (午前十時半)
- 十五日 養社・蛭子社・白山社例祭 (午前九時)
- 十五日 塩井神社例祭 (午前十時)
- 十八日 祈年祭 (午前十時)
- 二十五日 初甲子祭 (午前九時)

三月 弥生やよい

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 真田城跡慰霊祭 (午前十時半)
- 十八日 鉾執社例祭 (午後一時半)
- 三十二日 春季皇霊祭遙拝式 (午前九時)
- 三十一日 崇敬会大祭 (午前十一時)



四月 卯月うづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 四日 勸学祭 (午後二時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 七日 さくら祭 (午前十時半)
- 八日 杉祭 (午前九時)
- 八日 全国一宮等富殿社例祭 (午前十時)
- 十六日 垢離祭 (午前十一時)
- 十七日 献詠祭 (午前八時)
- 十七日 前日祭 (午後十時)
- 十八日 例祭 (午後十時)
- 十八日 舞揃 (午後二時)
- 二十日 氏子入り報告祭 (午後二時)
- 二十日 十二段舞楽奉奏 (午後二時)
- 三十一日 十二段舞楽奉奏 (午前十一時)
- 三十一日 神幸祭 (午後二時)
- 二十六日 甲子祭 (午前九時)

五月 皐月さつき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 五日 こども祭 (午前十時)
- 六日 本宮山青葉祭 (午前十一時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)

紀元節祭

二月十一日は神武天皇が御即位され日本を治められるとともに国が国として成立した、いわゆる国の誕生日である「建国記念の日」にあたります。当日は紀元節祭斎行にあわせ、午前八時三十分より三地区各所より神社へ向け、子供会が中心となり総勢三百名程で手に国旗の小旗を揺らしながら奉祝のパレードを行いました。

祭典参列後、拝殿前にて国旗を掲げ式典が執り行われました。また、その横では時折雪も混じるなか子供たちが元気に餅つきやビンゴゲームをして賑やかに建国をお祝い致しました。

建国を奉祝することは各国共通で、自国を愛することは当然で更なる発展を願う日でもあるのです。

悠久の歴史をもつ日本国に誇りを持ち、国の本来あるべき姿を正確に認識することが大切ですが、先人に対する感謝を忘れてはなりません。こうしたことが延いては世界の平和のために繋がることになるでしょう。



奉祝式典

初甲子祭

当社の御祭神大國主命が国土経営を始めたのが甲子の日と云われ、六十日に一度巡るその御縁日に甲子祭を斎行しております。甲子が千十二支の最初の干支であることから、事始め・招福の祈りがこめられています。

その中でも初甲子祭は、寒明け最初の甲子の日(本年は二月二十五日)を祝い、特に御霊験あらたかたで願事が叶えられると伝えられています。祭典は午前中数回に分けて斎行され、この時に限って本殿の廻りを歩いてお参りすることができます。金幣拝受(金の御幣によるお清め)の後、本殿周囲を右回りに一廻りし、本殿浜床に置かれた打ち出の小槌を振り、家内安全・商売繁盛・病魔退散を祈念します。縁起物での無事杉(一年無事過ぎるよう)との意味を込められた杉の御幣)を授かる方々で賑わいます。参拝後に福引が執り行われ、掛軸や福神像・開運福だるま等の景品もあります。その後の直会では、神社でとれた椎茸の入った炊き込み御飯

やドブロク(古式神酒)を心待ちにされる方も多く楽しい直会となります。



初甲子祭

勸学祭

四月四日午後二時より勸学祭が斎行されます。

勸学祭は戦後から行われており、毎年氏子地域内の小・中学校に進学されるお子様を入学式当日にご案内し、お子様の身体健全・学業成就、また、毎日無事に学校へ通うことができる様にご祈願致します。

祭典には、入学式を終えたばかりの希望に満ち溢れ、元氣いっぱいの新一年生の皆さんが両親に付き添われご参列されます。中には親子二代にわたりご参列される方も数多くみられ、ご神縁を伺い知ることが出来ます。祭典の最後には、ご参列いただいた皆さん全員に学業成就の御守と神札を授与致します。

また、境内では、家族で写真撮影される方の姿が数多くみられます。



勸学祭

全国一宮等合殿社例祭

四月八日の杉祭り引き続いて例祭が斎行されます。小國神社には、もともと全国の一宮の御祭神を主としてお祀りする五十余社の末社が境内外にありました。そのほとんどは長年の風雨に晒され腐朽し、また明治の火災によって焼失しました。明治以降随時、合祀して復興に努めてまいりました。平成元年二月十八日に三間社流造りの社殿を大杉の南側に新築し、五十余社の御祭神を合せてお祀りいたしました。社名は全国一宮等合殿社と称し、平成二年四月八日に最初の例祭が斎行されました。



全国一宮等合殿社

例祭

例祭は祈年祭・新嘗祭の面祭とともに三大祭と称され、ご祭神「大日貴命」に特別に縁がある日であります。例年の通り四月十八日午前十時より斎行されます。

神幸祭（おわたり）・勅使行列・稚児行列は四月二十一日の日曜日に斎行されます。

国指定の重要無形民俗文化財である「十二段舞楽」は四月二十・二十一日の奉奏となります。小学生である稚児舞の奉仕者は、三月下旬と四月上旬に舞堂屋（記念館）に稽古と心身の清浄のために合宿をします。神幸祭の五日前には、塩井神社での垢籬祭（浜下り）に参列し、舞揃を経て当日を迎えます。

祭典斎行及び神賑行事の実施等には、諸関係各位のご理解ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



神幸祭

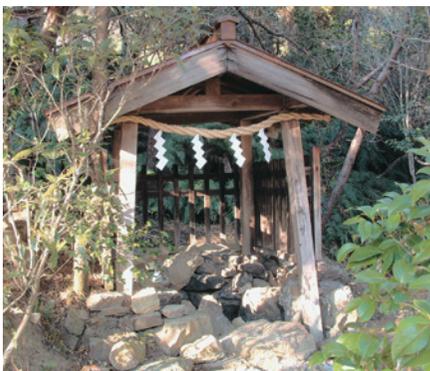


例祭の拝殿前

古代の森シリーズ ④

塩井神社・塩井戸

塩井神社は塩筒老命を御祭神とする境外末社の一社であり、神社門前の道路を東に約一キロ程先の山の中腹に鎮ります。社殿の東下には塩分を含む水がわく井戸があり、潮の干満によって水位が上下すると伝えられています。地下水脈によって上げられる塩水は、終戦後の塩不足の時にも人々の生活を支えました。例祭日の二月十五日には、周辺地域である伏間地区の方々が参列されます。小國神社の例祭に伴う垢籬祭は、「浜下り」といわれ、この井戸の水を使うことにより海辺の褌と同等の意味を持ちます。また、井戸水は胃腸薬と魔除けになる伝えられ、遠近より崇敬者が塩水汲みに参詣されます。



塩井戸

「小國の杜・点描」

杜鵑草（ほととぎす）

ユリ科ホトトギス属 多年草
 十月頃、白地に紫の斑点を散りばめた二〜三cmの花をつけ、その模様を鳥のホトトギスの胸紋に見立てて名付けられたといわれます。
 わが国では十種類余りが知られ、開花期間の長いことから「永遠」という花言葉も。本宮山や別所沢、宮川沿いの木陰に静かにたたずんでいる姿をみることができます。



ホトトギス

梅

バラ科サクラ属 落葉高木

梅の花が一輪一輪とほころび始めると春の足音が聞こえてくるようです。その上品で清い芳香から、高潔、気品、優美又忠実といった花言葉も生まれました。春告草、花魁、好文木、清客、雪中君子とも称えられ、喜びにあふれる目出度い花木として、三友（松・竹）、三君（水仙・沈丁花）、四君子（蘭・菊・竹）、七香（百合・菊・桂・茉莉・水仙・槴）などの一つとして挙げられています。
 『万葉集』には、萩に次いで、一一八首



の梅を詠んだ歌が収められ、古来より親しまれてきた事が分かります。二月上旬より徐々に見頃を迎え、宮ノ谷池や大宝殿一带、アスレチック場内で春の息吹を感じさせてくれます。

分かります。二月上旬より徐々に見頃を迎え、宮ノ谷池や大宝殿一带、アスレチック場内で春の息吹を感じさせてくれます。

テイシヨウソウ

キク科モミジハグマ属 多年草

高さ三十cm〜六十cm。十一月頃、二〜三cmの白い頭花を穂状につけ、山地の木陰にみることができます。その繊細な美しさは、自然の不思議さ・妙趣を感じさせてくれるとともに、環境への心配りにも思いを馳せさせるものがあります。



水引（みずひき）

タデ科タデ属 多年草

日本各地の山野に生え、高さ四十〜八十cm。夏〜秋、上より見ると赤、下からは白く見える小花を多数つけます。花穂を贈物の包みなどにかける水引にたとえた名で、カミヒキソウ・センコウハナビなどの地方名もあります。縁起よい花といわれ、境内各所にみられます。



ミズヒキ

みなどにかける水引にたとえた名で、カミヒキソウ・センコウハナビなどの地方名もあります。縁起よい花といわれ、境内各所にみられます。

巫女さんの想い

お正月・節分には寒い中多くの方がご参拝にみえられました。中には明治生まれの元気なお年寄りの姿もありました。アルバイトの巫女さんも頑張り、授与所の中は賑やかでした。(Y)

編集後記

○「玉垂」第四号をお届け致します。正月の社頭には、例年になく若者の参拝が多かったように思われます。特に夕方から夜間にかけては、グループにてのお参りがめだちました。
 ○松下昭責任役員より「総代会研修旅行」の御寄稿を戴きました。九州の各神社にて大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。
 ○梅が咲き、河津桜も咲く準備をしております。花菖蒲の芽も少し地中よりでてきました。いよいよ春本番となります。

表紙写真について

平成十四年一月三日午前八時、神徳殿前から御本殿を撮影致しました。年間二〜三回は降雪がありますが、暖かい地方のため、翌日まで雪が残ることはありませんでした。

平成十四年二月十八日
 「玉垂」（たまたれ） 第四号
 発行 小國神社社務所
 郵便番号 四三七一〇三二六
 住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
 電話番号 〇五三八（八九）七三〇二
 FAX 〇五三八（八九）七三六七
 印刷 専サインオフィス エム・エス・シー